



78
6254

横海守備

亥
久
三
亥



亥
九月十四日於水軍體操所
和泉守

使
接書

Red rectangular seal impression at the bottom of the page.

70
6254

檀海守博



接書
使日

亥
九月十四日於山軍體操所
和泉守

檀海守博



昭和二十九年
二月五日
辨求

一 應換投早云

一 過百拙者其之内横濱表出張之之談判及積
中不交早速第引改之云云然之要同列也
列席之之面談改之及同出張ハ改量俄
出府之俄中是ハ如可速出府云大度云云去
太儀云云

其要此時法級人共一曰引合云云水先案内之俄中ハ

一 今日面會之俄ハ不城也云々之双國交際之域ニ付
國內人心之不都合甚矣不均止中談及俄云々

面會政事の事

一 兼知侍

一 其実ハ永久無親を不失批政ノ交真心より
中談ハ事故其所不能ハ心為在之候

一 了解侍

一 此度お談ハ俄々同列共より中談お當之儀
子七ハ何分國事多端ニ候、引合御子
ハお成事就之外國存リ、竹本 甲斐守
池田修理司引合方

大君より委任に命じられ親親の事

一 兼知侍就中甲斐守殿より永く引合也

一 侍事 故都合宜

一 此上國內人心不持合との儀、夜々中入る事情
其許亦も定之候、批政ハ事、与存ハ物交
此等より、強切迫り候、右亦外國對
為中、中ハ助合も存、此等包庇ハ、
情通、中ハ打明テ、談ハ尤政府も
夫、強措方世話、此等事、此等何分

形而一作者之次第及此其基奉
と申すは横濱を以て貿易を初め俄人心
不叶故に事ありて、如此形勢ありて
事よん先達より小笠原國書政より以書翰
中入通ふると此友お談し、而してお違政し
事あり者書翰より其疾より

一 此後横濱を以て事ありて此上人の都合
如何に心配政なりて、而して和親通商
永續に改見措き、是の内乱を生じ、是より

懇親之道に立至る信義を失はぬ場合
五事 誠念に懇親永續に為す、而して貿易
を廢し、長崎、釜谷、長崎、長崎、和親通商
通商に改むる者、全に懇親に永續を計らぬ
義に決り、絶交に依り、是より、以て、諒察可
政に、若し、只今、中、入、名、の、よ、り、も、委、細、に、談
き、中、事、に、お、り、所、以、知、可、政、に
一 若し、談、に、振、り、お、伺、中、に、併、條、約、に、結
は、國、に、若、し、若、し、談、に、通、横、濱、を、以、て、預、可、お

本との儀業知信理と年々と存心先在
歐羅巴各國の内使可居る者都 有港
近郊之儀可仰入りしも其の只今又其
之也其其の者横濱を可領り又長
崎をも可領り其の在る方業引信理
其の事と存心

一 船隻及可居る元之船親而後之為
多様其船之存心及其事 二 其引 渡き長
崎を領り其の儀 一 其 一 其

一 船其今日態、其船可居る一應は誤
之誤其何の誤也其佛公使可居る同也
其船條約之儀既に其施り其事

一 右船之誤中誤業素より其本意之誤也其
右之通り其事其無誤而後之補正
其可居る誤り其事

一 西人其由委任其事其誤可居る其
其由其右船之重大事件も政府も別

一 免許を乞ふに非ずして裁判は其不既、其介
談し其地ゆらと諾否に依りて是を以て談し。
取極り少形も其事其承出此也。

一 在批わらは此方より判決少く承出た事と其
多あまふ日少換一應承上高を政府より主筋とあ

一 在批わらあふ人印を標演をう閉免込此
ゆよ此換意大も承りり少は此換判は此事不

一 在批意り少少も換判は少くも此也
一 越意あ何と換判は大有事通り少は何

一 免言かくく、前主に可及と此換判は
領りル事と即此換判も少くも在政府
府より許さるる事少は此也

一 子ブロマキーキアセントリをもちて至る此換判政府と
政府より引合ふ事と其不承成と事少は此也

一 在留公使と其自國との条約違書為
此換判は其裁可し少事故条約面し少条一字

一 能あ何り少各國と其際方と其條約と明文は
はりとも其游移と其換判も其も其の意を

書り貿易通商ホ仕法ホ立彼我ノ産物を以
互ニ通商規則ニ依リ一体ノ交ハ和親恩篤
ノ情實を以双方ノ都合を斗可至致ル
交際ノ書誓言則條約面ニ本名ニ可至ル旨
一港ノ開鎖極ニ條約中ノ一事ニ其大綱領
多シ乃至上層ノ初段ニ米利ハ大統領ノ使節
此差紙下田ホ有ク條約ニ結ル旨今ノ和親
交際を本名ニ依リ執言ニ條約面ニ掲載
多開港貿易等ノ事ニ至後右懇執基

此中ノ市貿易ホ俄勧誘等ノ途ニ貿易
通商ノ條約をモ不結ル旨今ノ和親
其旨ホ此方不案内ノ事故多クハ引取
此交先試ニ三五年ノ貿易ヲ改行スル
極招言如何招モ可至極この事ニ付
如ク條約不結施ル旨今ノ和親
通商港以來何となく國內ニ不居今日
甚及既當今援取ル旨今ノ和親
係ノ形勢ホ成ル者ホ有ク情を親

見少波の上々神奈川之港を預一ハ共一概
條約面を失ひハ義占中得も其之乃及尤
明文之一端ニハ亦欠眼前之更ハ交際モ
尚く亦年々見一ハ乃其其実ハ和親永続
之執意ナリ也

一 右派之大事ハ亞蘭在公使之已内家
云英佛公使出陣亦年々不審ナリ

一 素より一曰り亦談一ハ心切ニ其之ハ一其三東利加ハ
條約有終ハ最初ニ其之和親ハ先年中其ハ

於長崎各開之貿易亦始ハ中其ハ必各國
貿易之儀中出押ハ開港法ハ場合可也之忠
告有ハ其將ハ其初之此方ハ其有海國之風習
之文字内之形勢も不計其後亦逆ハ其亞米
利加浸来逆ハ其横濱開港之始也ハ其成即今
如此之人心亦相合ハ其右左先西國公使ハ
亦其ハ其事一ハ其條約ハ其事ハ其決意也
一 先後其語亦其方中其是終ハ其大事也
英佛公使事ハ其亦其何事ハ其亦其事也

一 其儀を勿論之儀を國に授けし事より

一 今日此の席上英佛公使列座を仕儀を

遺儀を存せし儀を之を作すべ

し主なるも此の席上を在る事と云ふ物念を此

一 何れを租中ひ式

一 右遺儀を存せし儀を條約に照して

又取柄を成し事を因循し事しんは今日

此の列座に在りて存せし可有しんは

私に限りし作すし事な事實に迷惑を有

一 右中少の通に此方何れを英佛公使中少の事より

一 英公使より中少の事より此の席上を在りて

此の席上を在りて英佛公使の事より

事より此の席上を在りて英佛公使の事より

合との儀中上云

一 右其席上先づ角面を以て其席上を列

座との事より心は右を余り心は遠く有し

一 此の席上を在りて英佛公使の階級を以て

英公使よりハ上等の有し右よりハ下等

平上の事

一 何れも等級の式

一 佛公侯第一無主次華文を次に有る事
最末有るを英無を同等より以て任叙
は先塚より次より

一 是迄も相方の山時を先後と叙し
その他意を以て

一 叔唯今迄諸事公試との後を最初より
事なる條好は為結を以て有る

條約中を右試との方面を以て

一 條約上試との意を以て右條約を結
ゆも別試の為を結ぶ事

一 晋國にニストル中上は私國に對し
別後意の如く

事有るは此中平字の第一私
國に海軍仕を以て條約を結
後成は後有るは自國に
の右條約を守らせし多免海軍

仕の事、不誠、之を以てと、其の徳を以て
少くは、其の徳との事、其の徳を以て、
最、初、二、港、五、同、其、成、少、其、成、之、工
之、港、四、港、を、も、五、同、其、成、少、其、成、之、工
お、多、り、少、く、は、私、海、事、之、初、既、之、港、五、同
其、成、少、其、成、之、工、其、成、少、其、成、之、工
家、庫、五、同、其、成、少、其、成、之、工、其、成、少、其、成、之、工
五、同、其、成、少、其、成、之、工、其、成、少、其、成、之、工
外、國、政、府、を、も、五、同、其、成、少、其、成、之、工

其、成、少、其、成、之、工、其、成、少、其、成、之、工
五、同、其、成、少、其、成、之、工、其、成、少、其、成、之、工
五、同、其、成、少、其、成、之、工、其、成、少、其、成、之、工
五、同、其、成、少、其、成、之、工、其、成、少、其、成、之、工
五、同、其、成、少、其、成、之、工、其、成、少、其、成、之、工

大、君、政、府、を、も、五、同、其、成、少、其、成、之、工
五、同、其、成、少、其、成、之、工、其、成、少、其、成、之、工
五、同、其、成、少、其、成、之、工、其、成、少、其、成、之、工
五、同、其、成、少、其、成、之、工、其、成、少、其、成、之、工
五、同、其、成、少、其、成、之、工、其、成、少、其、成、之、工

此頃大吾玉凡智之差別有之我邦於之ハ
開港貿易成惠之ハより尚今之ハ其ハ
古成以修養主以於之内礼之ハ乃ハ可也
内礼起リ以於之隨る物産之減少抑送ハ
和親之破是之ハ中次之ハ可也とハ死以之ハ
長信ハ隔絶之ハ比古ハ退之ハ致ルハ文際上
之ハ以て之ハ都合之ハ趣之ハ中次以於之抑送
長崎ハ引移リ以於之回不ハ委任之者是也
而事委任之ハ之ハ子限之ハ受之ハ為致

此頃大吾玉凡智之差別有之我邦於之ハ

一 是迄之ハ安之善主以於之四年内礼之ハ
以之外人ハ對ハ礼送之ハ有之其ハ為
兩國之文際之破也一而條約之ハ未之ハ相可
其ハ事之改改之ハ死致ハ其後ハ以之ハ

一 右之折合之ハ終之接礼之及中ノ之ハ
後之ハ其ハ右之ハ一時之善起ハ以之ハ
其之ハ必之ハ蘭ハ正所ハ之ハ右之蘭
之ハ内正之ハ是也其ハ之ハ容易ハ其後ハ

この事外にてもたれしは度

一 唯今別を前首とするは既に長所ありし
和と多打ゆるは別前

一 右をこの國に除き取ゆるに安んずるは

一 右を除くは為とも又々々々を續と遂ふゆるを
出ずるなり

一 右は手續由を重く安んずるは安んずる

と思はれり外に條約並むるは

右は手続由を重く安んずるは

一 既和蘭公使より申上置かす事
者なり

一 右は外國之手を彼より採り出さるは
何もかくしる心記をなす

一 外國交際之儀國旗を以て標記
其國と云ふは之を以て

右は手続由を重く安んずるは

一 固より是れよりハ急ぐは右の手を
諸國港場と忽ち変更事ありしは

怨親を破多招るも不亦半名鎖港之儀
談判より

一 右に仰談多趣政府中を以て私と
職掌之儀を委曲可申通はるる
此談判を政府に承引可仕と見振
無之唯今は開成居る港出願可
相成との儀を申行届中可交既
西港支都近期は淡を承諾仕上
今般は淡は産を於て之儀を承

一 右西都支港近期之儀は国内各般事情
者之より中淡多事今般之儀は日新各般
事情多趣之同く

一 尚五國ニニストルより中上各般即長所表
かめ異國船も亦掛り其儀を
是置る此程業りても政府は船
取押る風多信各般礼好仕るの
由制止するも強増長仕る者
一 至極尤も事今右に政府に可致

至公使

- 私職常之事、此等官固より可中を
 以得在古て此書習を以委曲法認取
 各國公使の所傳を以可然私於
 事取也
- 於勤無可及也
- 何事とも此都合次第に可成り
- 本國政府に可中を以の儀を以可分り可也
 今般在該一々事一志心多撥事情
 西人之其事情能お分り可也

- 和蘭公使に上る當付此等都合と中者
 條約の所請より相生し可也心得可也
- 在りて何より相生し可事一と云ん得可也
- 外國人の此當國に於越不中其當今
 形況に及可中と云ん
- 既、諸侯の内より自分願分る内、交易を
 宗事一相願ふそのは此座より由各事
 是より可起り可事一と云ん
- 是を一振ると云ふ右振と向て可也

一 諸侯之由之外國人を仇視し得る
 事は政府の二心を抱く事と爲り
 一二之開港交易之爲る事は凡一般
 人情を招く事と爲り

一 前中上之通西都西港延期之儀は
 仰入の後又ハ横濱領港之儀は
 尤も得る事と爲り長崎の儀は
 可成り計畧と爲り事は曲由該
 之趣文の中通儀ハ其儀ハ其儀

私におきては請合中上之儀

一 右指之儀中上之儀は情不吞込事と存り
 西都西港延期之儀人心不都合中上之儀
 者其後人心居合方政府におきて種々心を
 合し何分居合兼當今甚其甚成
 長崎箱館支港延期序を以て可開との
 計畧杯を變じて事と爲り
 一 外國と爲り國內と爲り合を政府と爲り

鎮壓鎮一一則政府に政府多々
所言の由國にその在振多し私共おいて
一固相分り不中々

一固より其指多し事一して多しは此并一具
所意以多しゆて其為内礼を一生し
場合に至り可中々

一唯今五公使より中上は私と同意の
不有右を其鎮は為鎖港に及んば
却るべき道を其助は以助して其を其

一 變じたる在極多し其横濱を演一一は其者
一 國内より公折合可中々

一 變じたる庸醫多し療治を病を愈さず
七 病を風けりとの誤有るは其後熱
右 熱一し粘るは

一 尤、ゆび然病源之所因能あるは其右を
相去りし事を其療治の方多し其多しゆ
一 元より病之源因を其療治は其事多
山は其其為多件を其ひりるは如何

可有之也

一 病根を去されい交際を破き和親永後
不致極古来の事故治之療を施しり

一 有る全ク和うし治る極可有成治趣意を
存し只片病之除き其和うし
治る極古来の事故治之療を施しり

上り事

一 相分り其事ハ先是並改等之諸院を
一 定鎖し可有之の物念を少解之致り

一 既ニ五都五港延明之交治後之良者

治後一兼引仕り必横濱を以て鎖し

極可有之事ハ上り事ハ極可有之

無之治之治り其通一取斗知果之

片日之治後之古来極存之

ありし事思召り

一 甚高之固々横濱を鎖下見込之

片日之治後之古来極存之

事

一 河内を以て今に在るに相模相美佛公使の如く
相模を以て今に在るに直に相呼ぶべきは其
必出府を以て其の如く在るに私心の如く
事一の如く

一 古くは親を以て夫に在りて事不中候に在り
事ハ其の如く

一 國々私事、其の如く在りて事不中候に在り
事一の如く
是れ其の如く在りて事不中候に在り

一 國々公之候判り事、其の如く在りて事不中候に在り
事一の如く
是れ其の如く在りて事不中候に在り

一 其の如く在りて事不中候に在り
事一の如く
是れ其の如く在りて事不中候に在り

一 地方官の好む書牒一以稱之無二其意
事情の移案一人七事一書面をも可^レ從
以^レ在政者を奉^レ交一送少紙一
一 和推家大と之義之故存の得る日
と極之良孫馬とい後程もあ^レは面
借之飲新作乃以定夕夜日同様之
實有^レ書心得^レ一在^レ而も必^レ以^レ可
一と存^レ金く^レ山^レ計^レ所^レ上^レ追^レ
必^レ在^レ極^レ一事情も亦^レ之^レ也

一 既^レ世^レ西洋八月東港東都延期之
義之政者も金^レ兼^レ公^レ供^レ事^レ
以^レ解^レ一連^レ在^レ以^レ存^レ其^レ事^レ
而^レ扱^レ可^レ与^レ追^レ之^レ運^レの^レ也^レ東^レ古^レ孫^レ判
以^レ命^レの^レ一^レ追^レ之^レ事^レ一^レ以^レ存^レ
也^レ考^レの^レ一^レ全^レ一^レ時^レ以^レ余^レ也^レ宗^レ部^レ
以^レ國^レと^レ為^レ法^レ給^レ台^レも^レ存^レ也^レ
一 在^レ極^レ也^レ成^レ少^レ到^レと^レも^レ能^レ不^レ致^レ也
一 既^レ連^レ解^レと^レ存^レの^レ先^レ以^レ之^レ以^レ孫^レ事^レ海

本邦の利益は、其の益増長
の爲に横濱を以て鎖國の要地と爲すべし
一、然るに其の古來一州の南東にありて
之

一、支人の古來之ものも有るに、其の統一人
を古來とすべし

*此時長州相の所船を棄て阿州相の所船
を去り、且て其の趣に立て、其の解有る*

一、其の使節、其の法編に於て、其の横濱の鎖

港に於て、其の法編に於て、其の横濱の鎖
國に於て、其の法編に於て、其の横濱の鎖

一、其の使節、其の法編に於て、其の横濱の鎖

一、其の使節、其の法編に於て、其の横濱の鎖

一、其の使節、其の法編に於て、其の横濱の鎖

一、其の使節、其の法編に於て、其の横濱の鎖

一、其の使節、其の法編に於て、其の横濱の鎖

不相和也

一、其の使節、其の法編に於て、其の横濱の鎖

軍艦白象胆以戸表と出りてと兼
知孫五の私を帰港と云ふ不恒極と
不表來のたのむと罰の

一 尤の英佛との出府と彼其許因旋有と察

一 出府不致の事と有と多ありと在案一

不出のり私に在案と一 該は委信と

在案と一 該は委信と

の極可有致と一 該は委信と

右軍の退席

